

INSIDE-OUT

木二中 学校だより No.35 令和6年1月24日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



NO SIDE [ノーサイド] ～敵も味方も関係なく互いの健闘を称え合う～

ノーサイドという言葉は、ラグビーでかつて審判が試合終了を宣言するために用いられていた言葉です。日本では「NO SIDE」という言葉は現在でも用いられていますが、今は「FULL TIME」が国際試合でも一般的なんだそうです。

「試合が終われば敵も味方もなく、お互いの健闘を称え合い、感謝し、ラグビーを楽しんだ仲間として友情を深める」というラグビーの精神に重ねる言葉として日本では広く浸透しており、そこには日本人の美徳も込められているとか。(フリー百科事典ウィキペディアより)

今週22日(月)より、一部私立高校の合格発表が始まり、木更津第二中学校においても校長から私立高校受験者一人一人に合否が伝えられました。合格発表の会場となったコンピュータ室では、「校長先生の前に座ったら、受験番号と名前を大きな声で伝えなさい」と各担任の先生方からご指導されていたはずですが、3年生にとってみればこの上ない緊張の一瞬なのでしょう、私の目の前に座るなり

受験生:「ん？」

校長:「ん？」

— しばらく沈黙 —

受験生:「あっ! 受験番号〇〇〇〇〇番、〇〇〇〇です。」

なんて素朴で微笑ましい生徒の多いこと。合格が伝えられた生徒の中には、涙を流す生徒や小さくガッツポーズをする生徒、安堵のため息をつく生徒、そして「公立も頑張ります!」と力強い言葉を発する生徒も。

私立高校単願受験者にとってみれば、これで高校入試から解放、まさにノーサイドということになります。ある生徒は、

「まだ公立受検が控えている仲間がいるので、終わるまでは迷惑をかけないように注意して生活します。」と仲間を気遣う言葉も。

仲間であっても入試会場ではライバル。高校入試は長く、厳しく、そして苦しい孤独な戦いだったけど、入試が終わればノーサイド、もうライバルとか関係なく、お互いの健闘を称え合い、お互いを高められたことに感謝し、共に戦った仲間として友情を深めてほしい。

令和6年3月4日、公立高校の合格発表で、すべての入試日程が終結します。

緊急対応マニュアルの改訂及び保護者の皆さまへご協力をお願い

学校における生徒の安全については、平成21年に改訂・施行された学校保健安全法によって学校安全計画・危険等発生時対処要領、いわゆる危機管理マニュアルの策定が義務づけられており、本校においても地域の特性や実情に応じたマニュアルを策定し、定期的にその見直しに取り組んでいるところです。

平成23年の東日本大震災をはじめ、令和元年の房総半島台風、直近では令和6年元日に発生した石川能登半島地震など、想定を遙かに超える災害が発生していること、また、前回の危機管理マニュアル改訂から一定期間が経過していること等を鑑み、新たに木更津第二中学校の危機管理マニュアルを改訂及び追記することといたしました。

新たな危機管理マニュアルでは、大地震等自然災害に限らず近隣において凶悪事件が発生し、容疑者が逃走中で登下校時生徒に危害が及ぶ恐れがある場合や、不審者が学校に侵入し実被害が認められた場合等の非常時に生徒を安全に保護者へ引き渡し手順等について、詳細かつ明確に盛り込みたいと考えています。

令和6年度がスタートするまでに早急にとりまとめ、保護者の皆さまにご提示させていただきます。保護者の皆さまには、マニュアルに沿った引き渡し等へのご協力をお願いいたします。